

非核平和都市品川宣言

2015 品川区平和使節

# 派遣レポート



品

品川区

## 非核平和都市品川宣言

今、この地球に、  
人類は自らを滅ぼして余りある核兵器を蓄えた。  
いまだかつて、開発された兵器で使われなかったものはない。  
これは、歴史の恐るべき証明である。

一刻も早く、核兵器をなくさなければならない。  
頭上に核の閃光がひらめく前に。  
遅すぎたとき、それを悔やむだけの未来すら、  
我われには残されていない。

品川区は、核兵器廃絶と恒久平和確立の悲願を込めて、  
ここに非核平和都市を宣言し、全世界に訴える。  
我われは、いかなる国であれ、いかなる理由であれ、  
核兵器の製造、配備、持込みを認めない。  
持てる国は、即時に核兵器を捨てよと。

このかけがえのない美しい地球と、  
そこに住む生きとし生けるものを、守り伝えるために。

昭和 60 年 3 月 26 日

品川区



「シンボルマーク」

## はじめに

品川区では、核兵器の廃絶と恒久平和の確立を願い、昭和 60 年 3 月 26 日に、区民の総意のもとに「非核平和都市品川宣言」を行いました。

この宣言の趣旨を一人でも多くの方々に理解していただき、戦争の悲惨さや平和の大切さについて一緒に考えていくため、品川区では様々な事業に取り組んでまいりました。

本紙における、広島・長崎への平和使節派遣事業は、宣言の趣旨を次世代に語り継いでいくことを目的として、昭和 62 年から実施していた「青少年広島の旅」を引き継ぎ、平成 15 年度から始めたものです。「品川区平和使節」と位置づけ、本年度で 13 回目を迎えました。

今回、広島へは品川区立中学校 8 年生 15 名、長崎へは一般公募の青少年 6 名を派遣いたしました。平和を願う呼びかけに、区民の方などからたくさんの千羽鶴が寄せられました。平和使節派遣生はそれぞれの鶴にこめられた「平和」への願いを胸に、区民の代表として広島・長崎へ献架いたしました。

特に広島の派遣生はそれぞれの学校の文化祭や学習発表会において、派遣生一人ひとりが知恵を振り絞り、友達や地域の方々に一生懸命平和への想いを伝えました。

この「派遣レポート」には、平和祈念式典への参加、資料館の見学、被爆者講話の聴講、碑めぐりなどを通して、派遣生が感じ、学んだ貴重な経験が報告されています。今回の経験を通して、平和の尊さ、大切さに対する認識を深め、その「想い」が学校や職場、地域社会に広がり、あらためて平和について考えるきっかけになれば幸いです。

末筆ではありますが、本事業の実施にあたりご協力いただきました講師の平野貞男様、中谷悦子様、広島市、長崎市、千羽鶴を託していただきました品川泉の会様ほか関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

品川区

# 目次

はじめに	1
第1部 中学生広島平和使節派遣	
1. 行動日程表	3
2. 行動のスナップ	5
3. 感想文	8
4. 被爆者講話	22
5. 碑めぐり講話	31
6. 成果報告	33
第2部 青少年長崎平和使節派遣	
1. 行動日程表	41
2. 長崎での主な活動	
（1）青少年ピースフォーラム開会行事（被爆体験講話）	44
（2）被爆建造物等のフィールドワーク	45
（3）平和祈念式典	46
（4）平和学習（意見交換）	47
（5）長崎原爆資料館見学	48
（6）自主研修・市内見学	49
3. 成果報告書	51
4. 派遣をふり返って（感想）	59
第3部 資料編	
1. 広島	
（1）広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式次第	63
（2）平和宣言	65
（3）平和への誓い	67
2. 長崎	
（1）長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典次第	68
（2）長崎平和宣言	69
（3）平和への誓い	71

# 第1部

## 中学生広島平和使節派遣



袋町小学校平和資料館にて（8月6日）

### ●派遣生

#### 【前列左より】

鈴ヶ森中学校	今井 恵太
大崎中学校	桜井 海竜
八潮学園	吉田 達哉
荏原第一中学校	木下 力也
浜川中学校	米田 優大
荏原第六中学校	柿沼 旺介

#### 【後列左より】

豊葉の杜学園	渡邊 由夏
伊藤学園	太田 梨香
日野学園	デンスコム 優花
東海中学校	新垣 杏佳
荏原第五中学校	瀬川 佳菜
富士見台中学校	加藤 星楽
戸越台中学校	野口 夏七
品川学園	井上 明子
荏原平塚学園	吉田 明菜

### ●引率者

日野学園副校長	齋藤 道
浜川中学校副校長	金児 京子
総務部総務課平和担当	樺島 亮

（敬称略）

# 1. 行動日程表

## 第13回中学生広島平和使節派遣 平成27年8月5日～7日（2泊3日）

8月5日（水）

時 間	行 動 内 容	場 所
8:30	集合・出発式	JR品川駅新幹線北口
9:17	品川駅発（新幹線）・昼食	
13:08	広島駅着	
14:40～15:45	被爆者講話	広島YMCA国際文化センター
17:00～18:15	原爆ドーム・平和記念公園 見学	平和記念公園
18:30～19:45	夕食・打ち合わせ	レストラン「リバーズガーデン」
20:00	ホテル着・一日のまとめ	ホテルサンルート広島
22:00	就寝	

8月6日（木）

時 間	行 動 内 容	場 所
6:00	集合・朝食	ホテルサンルート広島
7:00	式典会場到着	平和記念公園
8:00～ 9:00	平和記念式典参列	平和記念公園
9:40～12:00	意見交換会	広島YMCA国際文化センター
12:15～13:05	昼食	「お好み村」
13:15～13:45	袋町小学校平和資料館見学	袋町小学校
14:00～15:00	広島平和記念資料館見学	平和記念公園内
15:10～16:00	休憩	ホテルサンルート広島
16:10～17:45	原爆死没者追悼平和祈念館見学	平和記念公園内
17:50～18:00	灯ろう流し見学①	元安川
18:15～19:30	夕食	レストラン「リバーズガーデン」
19:40～20:15	灯ろう流し見学②	元安川
20:30	ホテル着・一日のまとめ	ホテルサンルート広島
22:00	就寝	

8月7日（金）

時 間	行 動 内 容	場 所
7:00	集合・朝食	ホテルサンルート広島
9:00～10:30	碑めぐり講話	平和記念公園
12:00	広島駅到着	
13:13	広島駅発（新幹線）・昼食	
17:06	品川駅着・解散式	
17:30	解散	JR品川駅新幹線北口

## 第1回事前学習会 6月17日(水)

派遣生が派遣の目的を理解し、より高い意識を持って、派遣に臨めるよう事前学習会を開催しました。

- (1) 派遣生自己紹介
- (2) 非核平和都市品川宣言について
- (3) 広島平和使節派遣事業について
- (4) 広島・原爆について学習
- (5) 事前学習課題について
- (6) 派遣日程・健康管理について



## 第2回事前学習会 7月16日(木)

「原爆の恐ろしさ」「広島に何が起こったのか」「原爆とはどういうものか」など事前に学習してきた内容をグループ内で発表、意見交換を行いました。その内容を、各グループでまとめ、全体へ発表しました。最後にスケジュールと注意事項を確認しました。

- (1) グループ学習
- (2) 「派遣のしおり」内容確認
- (3) 派遣の諸注意事項について



## 事後報告会 8月19日(水)

一人ひとりが広島で学んだこと、感じたことなど感想を発表しました。その後、今回の経験を同年代に伝えていくため、各中学校における派遣成果発表について確認しました。

- (1) 派遣の感想発表
- (2) 広島派遣の写真配布
- (3) 各学校における成果発表について





## 2. 行動のスナップ



品川駅で出発式 8月5日



車中（品川～広島）にて 8月5日



広島駅にて 8月5日



被爆者講話 8月5日



世界遺産「原爆ドーム」見学 8月5日



区の代表として千羽鶴を捧げる 8月5日





平和記念式典へ参列（黙とう） 8月6日



意見交換会（講話や式典参加などを通じて感じたことをまとめる） 8月6日



意見交換会（グループ発表） 8月6日



広島名物お好み焼き（お好み村で昼食） 8月6日



袋町小学校平和資料館にて 8月6日



平和記念資料館にて 8月6日



平和記念資料館にて 8月6日



原爆死没者追悼平和祈念館にて  
(被爆体験朗読会に参加) 8月6日



元安川で灯ろう流し見学 8月6日



碑めぐり講師講話 8月7日



碑めぐり講師講話 8月7日



品川駅にて解散式 8月7日

### 3. 感想文

---

#### 二度と起こさないために

日野学園 デンスコム 優花

私が広島を訪れて感じた第一印象は、きれいな都市だということでした。本当にここで戦争があり原爆が落ちたのかと疑うくらいに、広島都市は発達しておりきれいでした。そこから戦争があったという現実に戻されていきました。

印象に残ったことは3つあります。1つ目は、被爆者講話です。平野さんの右腕のケロイドの跡を見て衝撃を受けました。70年も苦しんでいた人がいるという事実に驚き、悲しみを感しました。平野さんの話の中で、被爆してさまよい歩いていたときに、なかなか水をもらえなかったと聞いてびっくりしました。戦争は人の心を変えてしまったのです。平野さんは戦争を繰り返してはいけないと何度も何度も言っていました。私たちはその意思をつぎ、戦争のない世の中をつくることに力を尽くしていくことが大切だと考えました。

2つ目に印象に残ったことは、平和記念式典です。8月6日の暑い中、大勢の人が訪れていました。その中にはいろいろな国の方がいらっしやいました。広島悲劇は様々な国の人が知り、もう2度とないようにとその思いを込め、私は黙とうを捧げました。この場にいる人たちだけではなく、老若男女を問わず世界中の人たちがその思いを抱いてくれることを願います。またその後、平和記念資料館に行きましたが、とてもこの世のものとは思えないような展示品が多くありました。

被爆した三輪車、鉄かぶと、松の木、建物、そして人。特に人は見ているのがつらいような写真が飾られていました。戦争を知らないような小さい子にも、この事実を知ってもらいたいと深く思いました。

3つ目に印象に残ったことは、碑めぐり講話です。特にアオギリの木の話が心に残っています。原爆で片足をなくした鈴子さんは、被爆しても成長し続けているアオギリの木に勇気をもらったという話です。私がもし鈴子さんと同じ状況だったら、立ち直るのは難しいと思います。けれど、鈴子さんは立ち直り、他の人にも勇気を与えてすばらしいと思いました。どんなに辛い状況であっても、前を向いて生きていくことが大切だと分かりました。

このようなことから、広島悲劇は世界中に伝えみんなが理解し、もう二度と起こさないために努力していく必要があると考えます。そして日本は、これから戦争を起こさない方向へ私たちの世代が引っ張っていくことが大切だと思います。

---

#### 平和とは

伊藤学園 太田 梨香

この世の地獄と化したあの日…その日から七十年経った広島は、「本当に原爆なんて落ちたの？」と疑ってしまうほどにぎやかで、都会でした。でも、この広島派遣での様々な経験を通して、私は原爆の悲惨さを肌で感じ、平和とは何かを深く考えることができました。

八月六日、私は広島平和記念資料館を訪れました。そこで見たものは、私の想像を遥かに超える、残酷な写真や物の数々。その数々



の品からは原爆の残酷さ、悲惨さがひしひしと伝わってきました。まさに都会とは正反対の、にぎやかさのかけらもない広島がそこにはありました。見渡す限りの焼け野原やひどい怪我をした人々の写真、ボロボロになってしまった遺品の数々…。たった一発の爆弾で、こんなにもひどい有り様になってしまうのかと、ひどく残念に思いました。しかし、世界にはまだ原爆と同じ核兵器が一万五千発以上も存在しているそうです。一発でそのひどい有り様になったというのに、その一万五千発以上の全てが爆発してしまったらどうなるのでしょうか。想像するだけで残酷で仕方ありません。でも、戦争の残酷さは爆弾だけではありません。人々は、爆弾におびえさせられながら、苦しい生活を送らなければならなかったことを、原爆の被爆者である平野貞男さんが教えてくださいました。

平野さんからは、原爆、そして戦争体験のお話を聞きました。平野さんは被爆当時十二歳で、今の私と同年代でした。しかし、十二歳の平野さんと、十四歳の私たちの生活は、全く違いました。その当時の子どもたちは、勉強することが全くできず、夏休みやクリスマスなどの楽しい行事もなく、食べるものもなく、朝から晩までずっと働かされたそうです。その生活に比べて、今の私たちはどうでしょう。勉強は思う存分できる、楽しい行事も食べるものも沢山あります。そして何より笑顔で暮らしています。「今は幸せ、夢みたい」と平野さんはおっしゃいました。勉強ができて、楽しい行事も食べるものもあって、そして何より笑顔で暮らしている。それを幸せと呼ばずに何を幸せと呼ぶのでしょうか。人々が殺しあい、苦しめあうことで、何か良いことでもあるのでしょうか。いえ、決して無い

はずです。私たちは、人を不幸にするためではなく、人をそして自分を幸せにするために生きるべきだと思いますか。

私は、この広島平和使節派遣を通して、平和とは、今の生活のように当たり前のことが当たり前に出来る、そんな当たり前のことだと学びました。当たり前の生活を、人間自らの手で壊してしまうような行為は、二度としてはいけません。だから私は、当たり前の生活ができることに感謝の気持ちをもって過ごしていきます。例えば、学校へ行き、友達と過ごす時間を大切にする。嬉しいときはありがとう、間違えたらごめんなさい、どんな時も素直な気持ちをもつことを大切にしていきます。そしてこの感謝の気持ちと広島で得た経験を伝え続けます。

どうか皆さん、この悲惨な出来事から目をそらさないでください。当たり前かもしれませんが、日々の生活を大切に過ごしてください。そして、自分自身で平和とは何かを考えてみてください。私たち一人一人がそうすることが積み重なり、やがて未来の平和への第一歩となるはずです。

---

## 平和という幸せを永遠に

八潮学園 吉田 達哉

昭和20年8月6日、広島に原爆が投下されました。それによって罪のない人々が巻き込まれ、たくさんの命が奪われました。

それからちょうど70年経ったこの日、僕は広島に来ました。「原爆」と「平和」について認識するためでした。

1日目、新幹線から降りてたどりついた広島は、とてもきれいで、にぎわっていて、本当に原爆が落ちたのかを疑うほどでし

た。被爆後「75年間は草木も生えないだろう」といわれていたのに、路面電車が活発に走っている姿を見てびっくりしました。しかし、その後の被爆者の平野さんのお話で、戦争の怖さを思い知りました。まず、平野さんが全身を火傷していることに驚きました。事前学習で学んだ「ケロイド」というものでした。また、被爆直後に一斉に逃げたとき、ガラスが足にたくさん刺さったというのもびっくりしました。どれだけ苦しい思いをしたのか、少し分かることができました。

2日目には平和記念式典に参列しました。1番驚いたのは参加者の人数です。なんと会場を埋めつくす5万人もの人がいました。それだけでこの式典の重要さを感じました。資料館見学では、今までに見たことのない貴重な資料がたくさんありました。全身を火傷した女性の写真や、ボロボロの服など、原爆の被害の大きさを改めて知ることができました。そして、忙しい1日を終えて見た灯ろうはきれいで、またどこか寂しい感じがしました。たくさんの資料館で見た、苦しむ人々の姿が、自分を悲しい気持ちにさせたのだと思います。

3日目、平和の思いの込もった碑をめぐり、案内をして頂いた中谷さんのお話を聞きました。1番印象に残っているのは、被爆樹木のアオギリです。被爆しながらも翌年に新芽を出した奇跡の木は、とても堂々とたくましくたっていました。この木が昔の人々に勇気を与えたのだなと思ったら、何故か自分も勇気をもった気がしました。この木から人々は力をもらい、今の平和を支えてきたのだなと感じました。

3日間たくさんのことを学んで、原爆の恐ろしさと平和の尊さを自分なりに理解できま

した。僕にとって、今の当たり前の毎日は1番の平和で1番の幸せです。この平和を二度と失くさないで、原爆の恐ろしさ、戦争の怖さを広めることが、自分の役目だと思います。平和であるという幸せが永遠に続くことを願います。

僕は今回の広島平和使節派遣で、たくさん貴重な体験をすることができました。今まで教科書や本で見てきた広島を、自分の目で確かめることができました。

本当の平和とは何か、その平和を奪った原爆は何なのかということを知ることができ、それが自分にとってかけがえのない財産になったと思います。

---

## 被爆七十年目を迎えて

荏原平塚学園 吉田 明菜

1945年8月6日、広島に原子爆弾が投下されました。原子爆弾は、広島を町を一瞬にして地獄に変え、約14万人の方が亡くなりました。その日から70年目の今年、私は品川区平和使節団として、広島を訪れました。現在の広島は、東京と変わらないぐらい活気があふれ、とても70年前に原爆が落とされたとは思えませんでした。

しかし、私は被爆者の平野貞男さんの話を聞いて衝撃を受けました。平野さんは戦争の真っ最中に生まれ育ち、軍の言われるがままに当時12才だった平野さんも休みなく働かされ、戦時中は子供たちにも厳しい世の中だったと言っていました。原爆が落ちた日も平野さんは政府の命令で働いていました。平野さんと原爆が落ちたところでは約2km離れていましたが、それでも爆風により飛ばされ、体や顔が焼けてボロボロになり、みんな

化け物みたいになっていたそうです。また、平野さん自身も皮がむけ焼け、今でも右腕にはその跡が痛々しく残っていました。さらに、原爆が落ちた後は物資がとてもなく、生き抜くための苦難が今の私たちの暮らしでは考えられないほど大変なものでした。平野さんの話を聞き、私は原爆が落ちたときのすべてが無くなる恐ろしさ、そして現在の生活がどれだけ良いものかを知り、改めてこの時代に生まれてきたことを幸せだと感じました。

広島市の平和記念資料館には、被爆し全身が焼き焦げた人の写真や、爆風により壁に突き刺さったガラス片、放射線がもたらす被害など当時の資料がたくさん展示されていて、まるで70年前にタイムスリップしたような感覚でした。そんな当時の記憶が残る生々しい資料から原爆の危険性と被爆された方の苦しみ、そして核兵器は絶対にあってはならないものだ、と痛いほどに伝わってきました。私は、広島に来る前は原爆が落ち、多くの人が無くなったという事しか知りませんでした。しかし、今回実際広島へ行って原爆の怖さ、戦争の恐ろしさなどを実感し、こんな悲劇をもう二度と繰り返してはならないと心から感じました。

「今の自分たちにできる事は戦争に加担してはいけません。戦争は欲しか生まない。また悪い欲から戦争は生まれる。」という平野さんのお話が強く印象に残っています。

終戦から70年が経ち、現在は戦争の恐ろしさが風化されつつあります。戦争、そして核兵器がどれだけ恐ろしい物か……。日本は唯一の被爆国としてそれを世界中へと伝えなければいけません。また、このような悲しい出来事が起こってしまった事を忘れずに後世へ伝えていかなければならないと思いまし

た。

家族みんなで囲める食卓や、友達と遊んだり、学校で勉強したりするという何気ない幸せに感謝し、これからもそんな日々を大切にしよう、改めて強く心に刻みました。

---

## 広島平和使節派遣に参加して

品川学園 井上 明子

広島平和使節派遣、その言葉を聞いたとき、私はとても行きたいと思いました。

私は、小学生の頃から原爆や戦争という言葉を知ると詳しく知りたい気持ちになり、広島に一度でいいから行ってみたいと思っていたからです。ですが、その時の私は本当に、「興味」があっただけでした。しかし、それが私を広島へ導いてくれたのです。

広島、第一日目。最初は被爆者の方の講話です。お話をしてくださった、平野貞男さんは、まだ私たちと同じくらいの年の時に被爆されました。平野さんが体験された、恐ろしくも悲しいお話を聞くと、私はとても胸が痛みました。そして同時に、もう二度と繰り返してはいけません、と思いました。次に、原爆ドームに行きました。原爆ドームは、思っていたものよりも小さかったのですが、原爆の悲惨さを物語っていました。

二日目、この日は、朝早くから広島平和記念式典にいきました。とても強い日差しが照りつけ、雲一つない晴天でした。朝早いというのに、たくさんの方がつめかけ、人と太陽の熱気でとても暑かったです。市長さんのお言葉、安倍首相のお話、本当に沢山の人が平和について考えているのだと思うと、少し嬉しくなりました。式典の次は三つの資料館に行きました。一つ目の資料館は袋町小学校と



いうところで、被爆後にかろうじて焼け残り、救護所として使われていたそうです。二つ目の資料館、平和記念資料館は、沢山の写真や展示がありました。私は、それを見て、とてもとても悲しく、辛く、恐ろしく、そして少しだけ、怒りがこみ上げてきました。なぜ、何のためにこんなにも沢山の人が亡くならねばならなかったのでしょうか。私にはわかりません。三つ目は、原爆死没者祈念資料館です。ここでは、原爆で亡くなった方々の名前や遺書を見ることができます。被爆され、亡くなられた方々を見ていたら、また怒りがこみ上げてきました。そして、夜になってから灯籠流しを見学しました。ここで余談ですがなんと灯籠流しの時に写真を撮ったら、オーブ(霊のだす発光体)の写真が撮れたのです。私はとてもびっくりしたと同時にとても悲しくなりました。こんなにも沢山の霊がいるのだと思うと辛くなりました。

さて、私がこの派遣から帰ってきて、思ったことは「平和は、本当に素晴らしい」ということです。平和だから遊べる、平和だから生活できる。とても素晴らしいと思いませんか？私には、亡くなった方々を弔うことしかできないけれども、亡くなった方々の気持ちを胸に、平和なこの世界を、ずっと平和に守り続けるために、そしてもっと平和になるように、私にできることをやって、生きていきたいと思います。

---

## 広島を訪問して

豊葉の杜学園 渡邊 由夏

今の広島は高層ビルや建設中の新しい建物が並ぶ大きな都市です。私が広島の駅に着いた時、この場所が70年前、原子爆弾でたく

さんの人の命が奪われ、多くの建物が破壊され、数十年は誰も住めず草木も生えないと言われていた場所とは思えませんでした。けれども、被爆を体験された講師の平野さんのお話や原爆ドーム、資料館を見学した事によって、本当にここが、がれきと死体で埋め尽くされた場所だったということがわかりました。

70年前の1945年8月6日午前8時15分、目もくらむような光閃が広島のおおったと同時に黒いキノコ雲が晴れた広島の町をあっという間におおい、夜のような真っ暗な雲におおわれ、1500度から4000度の熱線と爆風、そして放射能が広島の人々を襲いました。

原爆投下地点から1キロメートル以内においた人たちは原子爆弾の放った高熱で、真っ黒焦げになってしまいました。その時、原爆投下地点から2キロメートル離れた学校におられた講師の平野さんも、体半分に大やけどを負ったそうです。平野さんのようにやけどを負いながらも生き残った人たちも、ケロイドという皮膚が大きく腫れ上がり皮がむけるという症状が表れたとのことでした。

炎が迫る広島の人にいた人たちは、水を求め川に入りましたが、そこにはおぼれたり、けががもとで亡くなった人たちの死体がたくさん浮いてたそうです。また原子爆弾の爆風による被害は、建物のガラスが割れて吹き飛んで人の体に刺さったり、倒壊した建物の下敷きになったりして亡くなられた人も多く出たようです。

放射能は目に見えないため、熱線や爆風の被害から逃れた人たちの中にも髪の毛が抜けたり、白血病やがんにおかされてしまった人もいました。講師の平野さんは「今の時代は

夢のように幸せで70年前とは全く違います。だから戦争は絶対にしないでほしい。戦争は自分さえ良ければ後はどうでも良いという人間の悪い欲から始まるもの。」と書いていました。私は、戦争は人を殺した後には悲しい思いしか残らないし、それに関わった人たちの人生を大きく狂わせるもので絶対に行ってはいけないことだと思います。戦争が終わって70年がたち今の私たちは十分に食事ができ、進んだ医療を受け、また正しい情報に基づく教育を受けることができます。これが平和という事なのだと、あらためて感じるができます。ただし、この日常は70年前のたくさんの人の犠牲、その教訓の上に成り立っていることを忘れてはいけません。

今回広島に行き、戦争をしたことで亡くなった多くの命と、生きのびた方々の悲しみと苦しみを知り、今の自分たちがどれだけ幸せなのかということがわかりました。このことを一人でも多くの人に伝え、戦争の無い平和な国がいつまでも続くようにしたいです。



## 終戦から七十年の年

東海中学校 新垣 杏佳

終戦から七十年という節目の年の八月五日から七日まで、私は広島県にいつてきました。

広島に行く前、私は原爆の恐ろしさについてよく分かっていませんでしたが、今回の広島派遣でたくさんのことを学ぶことができました。

一日目、広島駅に到着してまず初めに思ったのは、「高層ビルやホテルなどの建物がたくさんあって東京とあまり変わらないな」ということでした。

YMCA 国際文化センターでうかがった被

爆者の方の話は、今の私たちの生活とははるかに違って、「今の日本で戦争が再び起こってしまったら、私たちは生き抜くことができるのだろうか。」と思いました。

被爆者の方の話聞いて印象に残ったことは三つあります。

一つ目は、原爆が投下された直後のことです。2km離れているところでも、千五百度という鉄を溶かすほどの温度に、多くの方がさらされてしまったということです。

二つ目は、千五百度の温度にさらされても、瞬時に熱いとは感じず、十秒ほど経ってから熱いと感じたということです。私はこのことを知ってとても驚きました。

三つ目は、食べ物がないため、米ぬかやとこいもなどを食べていたということです。今私たちがなにげなく食べているお米などの食べ物は、戦時中はとても貴重な食べ物だったのだなと改めて思いました。

被爆者の方が話されていた、今の私たちに出来ることは、「再び戦争を起こさない」ということです。そのためにはまず、今回私が学んだ戦争の悲惨さを、たくさんの人に伝えていかなければと思います。

二日目は、内閣総理大臣など日本の偉い方々が出席している平和記念式典に出席しました。

今年は天候にも恵まれた中での式典でした。原爆が投下されてから七十年という節目ということもあり、百力国を超える国の方々が参列していました。

国連事務総長のメッセージの中で、「広島から世界のあらゆる人々の心に響き渡り、核兵器廃絶を確実に達成するため早急に行動を起こす必要がある」、「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」という言葉が私の中で

印象に残りました。核兵器を今すぐに廃絶することは、難しいことですが七十年前の悲劇を再び起こるようなことがないように少しずつ確実になくしていければと思います。

一瞬にして、街のほとんどが壊滅する原子爆弾。

この世に原子爆弾のような恐ろしい核兵器がある限りいつ誰が被爆者になるかも分かりません。再び戦争が起これば、また何の罪もない多くの人々の大切な命が奪われてしまいます。

今回の派遣を通して、争いや差別がなく、様々な国や地域の人々との間で平和な世界が築けたならいいなと強く思いました。

---

## 講話を聴いて

大崎中学校 桜井 海竜

なぜ人は戦争をするのでしょうか。戦争によって失われた命は、兵士たちだけではありません。戦争は、平和を願い、夫や息子、友人が一日でも早く無事に帰ってきてほしいと願う家族や市民たちをも巻き込み、たくさんの命を奪いました。僕は、この悲惨で残酷な争いを絶対に許せません。

僕は、戦後七十年という節目の今年、広島平和使節派遣の一員として広島に行くことができました。今回の一番の目的は、原爆が投下された広島で、実際に戦争を体験された方のお話を聞くことです。僕たちに講話をしてくださった平野さんが、「厳しい厳しい時代を一生懸命生き延びた」とゆっくりと口にした言葉が忘れられません。「厳しい時代」とは、お金がなく、不便ということではなく、食べるものもないひもじい生活、原爆投下後の地獄のような光景、戦後の被爆による後遺症や

差別など、精神的、肉体的な苦痛を抱えながら、一人、社会と戦い、一生懸命に生きてきたということだと思い、胸が痛みました。

また、食糧難で校庭を耕し、芋を作って飢えをしのいだことなど、今の僕には想像もつきません。作った作物も戦地の兵士に届けなければなりません。しかし、輸送の途中で、アメリカの潜水艦に攻撃され、食べ物が届かずに餓死する兵士も大勢いたそうです。さらに追い打ちをかけた原爆投下。原爆投下の日は、晴天でとても暑く、原爆は警報もなく突然投下され、その瞬間、閃光が走り、高熱と爆風により、家や人が吹き飛ばされてしまいました。爆心地付近の地表温度はすべてを溶かしてしまうほどの高熱で、2km離れたところでも大やけどを負うほどでした。被爆した人たちは洋服も皮膚も溶けてボロボロになり、化け物のようなようだったそうです。その後、放射性物質を含んだ黒い雨が降り、それを浴びた人たちも被爆し、建物や河川を再び放射能で汚染しました。その後の後遺症で今でも苦しんでいる人が大勢いるそうです。この思い出したくもない過去を、平野さんは僕たちに語ってくださいました。それは、平野さんが、戦争の惨さ、原爆の恐ろしさを後世に伝えることで、平和を望む強い思いだと思えます。その平野さんの強い思いを僕は確かに受け取りました。

今後、二度とこのような過ちを繰り返さないためには、どうしたらよいのでしょうか。今、なお世界では戦争が繰り返され、多くの市民が犠牲になっています。あの七十年前の市民と同じです。原爆もなくなっただけではありません。実際に原爆を投下された国は、日本だけです。日本が唯一、原爆の恐ろしさを知っている国なのです。だからこそ、日本人の僕ら

は、もっと世界に核兵器の恐ろしさや平和維持を伝えていかなければならないと思います。

僕は、広島派遣生として、原爆や戦争の悲惨さを伝え、平和に向けて活動していく使命があります。核兵器を国家間の抑止力にするのではなく、核兵器を廃することが「世界平和」の第一歩なのだと思えばなりません。初めは、十五人の小さな声ですが、何百人、何千人の大きな声にしていきたいと思っています。

---

## 広島平和使節派遣に参加して

浜川中学校 米田 優大

僕が広島へ行って、一番最初に感じたことは、広島市の街がとても発達していて、原爆が落ちたことを感じさせない雰囲気だということでした。その後、被爆者講話を聞き、印象に残った言葉がありました。それは「こんな世の中になるとは思っていなかった。」という言葉でした。僕はこの言葉を聞いてどれだけ今の世の中が幸せか痛感しました。戦時中は食糧もなく、学校の校庭に芋を植えて食べたそうです。現代に生きる私たちは、朝・昼・晩と三食分しっかり食べることができています。僕はこの講話を通して、現代はとても幸せな時代だと痛感しました。

二日目、平和記念式典に参列しました。まず花を手向けました。その時「ヒロシマを思うことは、未来を考えること」と書かれたパンフレットが目に入りました。僕はこの文章を、平和とは何か、平和な未来というは何かを問う文章だと思いました。この文章は「ヒロシマ」という場所を通して「平和」とは何かを具体的に考えさせるものでした。そして

平和記念式典が始まり、広島市長や、内閣総理大臣のお話を聞き、八時十五分になり、黙祷を捧げました。七十年前この数分間で、原爆によりたくさんの方々が亡くなりました。僕にはとても信じられませんでした。しかし、原爆の恐ろしさ、原爆が投下された直後の広島の様子を想像させる数分間でした。その後袋町小学校の展示館を見学しました。その中には、色々な人の名前が書かれた壁や黒板が展示されていました。僕はあの何もなくなってしまった町に、学校が残っていたことがすごいと思いました。多くの人々が家族を探すためにこの学校を訪れたという事をこの目で確かめ実感する事ができました。その後、平和記念資料館を見学しました。館内には、原爆が投下された直後の広島市の模型がありました。それを見る限り、何も無い焼跡となっていました。その焼跡から考えると、よくここまで復興することができたという驚きしかありませんでした。そして日が沈むころ、灯ろう流しをしました。川に流れる灯ろうはとてもきれいでした。しかし、これだけの人々が亡くなったと思うと改めて命の大切さを痛感しました。

最終日は碑めぐり講話を聞きました。僕がこの碑めぐり講話で一番印象に残ったのは、今の平和記念公園は、壊れた街の上に土を盛り完成させたということです。現代ではありえない事ですが、だからこそ、ここが平和記念公園ではないかと思いました。

この三日間を通して改めて平和の意味、大切さ、そして現代がどれだけ幸せかということがわかりました。僕は、平和とは人々の命が脅かされず、安心して暮らせることだと思います。この悲劇を正確に次の世代にも語り伝え、平和を維持するために自分にできるこ



とを行動で表していきたいと思います。

---

## 広島を訪れて

鈴ヶ森中学校 今井 恵太

僕はこの広島派遣に行く前に、原爆はマンガや、時々ニュースなどで見る、遠い過去の事というイメージでした。小学生の時、図書室にある「はだしのゲン」を読んだ時、原爆や戦争の恐さを知りましたが、それは日常とかけはなれていて、実感がわきませんでした。広島に着き、はじめに被爆者講話。平野さんから戦時中食べ物がなく、校庭でサツマイモを育てていたことや、特攻隊の事、原爆が落とされた当日の事をうかがいました。原爆投下地点から2km離れた場所にも、千五百度を感じ、約3秒後、爆風で何メートルか吹き飛ばされたという言う話は特に、衝撃的でした。次に原爆ドーム。実際目にしてみると、思ったより小さく、ボロボロでした。原爆ドームは、元広島県物産陳列館だと初めて知りました。70年前のまま、そこに保存されていることに驚きました。次に平和記念式典に参列しました。当日はとても暑く、式典会場は人が多く、見た事がある政治家や安倍首相を見かけました。参列者には外国人やアメリカ人と思われる方々もいました。僕が感じたことは、お年寄り多いことです。今年は戦後70年、被爆者や遺族の高齢化が進んでいると思いました。次に意見交換会を経て、次に袋町小学校平和資料館見学。原爆時の事を写真や資料で知ることができました。次に、平和記念資料館見学。目をそむけなくなる様な写真や、展示物の中でも原爆時を再現したマネキンは、原爆を受けた人が、どんな風だったかリアルに知ることができて、気

持ち悪さや恐ろしさが入り混じった感じになりました。その他の展示物からも、生々しい当時の様子が分かりました。次に国立広島原爆死没者追悼平和祈念会館見学。数々の資料の他に、語りべの方が朗読する詩が印象に残りました。次に灯ろう流しです。当日は、人が多く流せなかったが、原爆について知り、恐ろしさを知って、戦争はしてはいけないと強く思ったので、灯ろうに世界平和と書きました。

最後に、碑めぐり講話です。講師の中谷さんより、原爆当時の話などを伺いました。特に被爆したアオギリの話が印象に残っています。この様に、2泊3日の中で沢山の物を見たり聞いたりして、あっという間でした。今年は、戦後70年、このような節目に広島を訪れることができ、使命のようなものを感じました。あの戦争、あの原爆から70年も経ったのです。私の父母も祖父母も戦争を体験していません。戦争の記憶は薄れているはずですが。広島での経験が僕の中で遠い過去だった戦争や原爆をリアルにしました。僕の世代でも、また次の世代でも永遠に戦争のない世の中が続き、戦後80年、百年、二百年、となっていくことを願い、僕や僕らが戦争のない世の中にするため、努力しなければならぬと思いました。

---

## 毎日の暮らしの中で

富士見台中学校 加藤 星楽

私は第十三回中学生広島平和使節派遣に参加しました。初めて見た広島は、七十年前に原子爆弾が落ちた街とは思えないくらい、とても賑やかでした。約七十年間、草木が生えないと言われていたにもかかわらず、今は草

木は生え、日常の生活を取り戻しています。そして、私は八月五日から八月七日まで戦争や、原子爆弾のことを調べるために広島へ行ってきました。広島の復興の力はすごいと実際の目で感じ取ることができました。

八月五日、被爆者講話講師の平野さんから戦争中や、原子爆弾が落とされる前、直後などについて、話を聞きました。話を聞いている途中で私は、平野さんの右腕にひどいやけどの跡があることに気がつきました。千五百度、鉄が溶けるくらいの温度が、平野さんの右腕を襲ったと分かりました。その話を聞いたとき、想像ができずにとても衝撃でした。

八月六日、原爆資料館に行きました。原爆資料館には、皮膚が焼けただれている蠟人形がありました。事前学習の時に調べた写真を見ていましたが、資料館で蠟人形を見ただけで何倍も悲惨な状況が伝わってきました。そして、場所の関係や怖いという理由で、蠟人形が二十七年までに撤去されることを知りました。悲惨さを伝えなければならないのに本来の目的から外れる理由で撤去するのはどうなのかなと思いました。原子爆弾投下後は、体が炭のようになっていたり、全身大やけどをおった人が歩いているという今ではありえない光景を現実として起こったのです。中には骨が見えている人もいたようです。

八月七日、講師の中谷さんから碑めぐり講話を聞きました。原子爆弾が投下された八月六日から今も、行方が分からない人の遺骨を探している遺族の方もいます。復興しているように見えていますが、まだ苦しんでいる人がいることも知りました。生の被爆者の声を聞いて、貴重な体験ができたことを、私は一生忘れません。また、被爆者は高齢化しているので語り継いでほしいとの必死の語り口には

心を打たれました。

以前の私は、平和について考えていても、具体的に浮かびませんでした。しかし、広島派遣に参加して、平和は私たちの日常に関わっていることが分かりました。家に帰ると家族がいたり、毎日学校に通うことができたり、毎日ご飯を食べることができるという日常的な当たり前のことが幸せで平和な事だと感じました。二度と戦争が起こらないよう、戦争が知らないたくさんの人に伝えていきたいです。普段通りの生活に感謝しながら一日一日を大切に生きていこうと思います。みんなで平和について考えるだけでも平和につながると思います。

---

## 語り継ぐことの難しさ

荏原第一中学校 木下 力也

僕は8月5日からの三日間、広島に行った。今回は、その中でも特に心に残った被爆者講話と広島平和記念資料館について書く。

僕にとっての広島的第一印象は陽気で素敵な町だった。路面電車が道の真ん中を走り、あちこちに野球チームののぼりが立っていて、昔とてもひどいことがあったとは思えない程だった。しかしそのきれいな街並みこそが昔原爆が落とされたことを示していた。

一日目は被爆者である平野さんの話を聞いた。平野さんは中学生の時に被爆したそうだ。その貴重な話からは、資料からはわからない事実も聞いた。爆風の威力についてパンフレットでは1平方メートル当たり19トンにもなった、と書かれていたが、実感が今一つ湧かなかった。実際その場にいた平野さんの、「みんなが吹っ飛ばされ、校舎が浮き上がった」という証言で、やっとどれだけ爆風



が強かったのかが理解できた。また、爆発直後の温度についてパンフレットでは地表温度は4000度にも達した、となっていたが、その温度の感覚を想像することなどできるわけもなかった。しかし平野さんの話の中で、「爆発した瞬間は何も感じず、数秒たって突如熱いと感じた」といった話が出てきて、ようやく少し想像することができた。ちなみに、その直後平野さんたちはみんなパニックになって水を求めたのか、原爆がまた落ちると思ったのか、バラバラに逃げて行ったそう。その時の人たちは、助けを求めることもできず、地獄のような街の中を苦しみながら歩き回ったのかと思うと胸が痛んだ。そんな状況下で生き延びた人々は、心がとても強い人なのだと思います。

二日目は平和記念資料館を見学したが、そこにあった遺髪や8時15分で止まった時計を見ても、やはり一日目と同じように胸が痛んだ。特に被爆した人のジオラマはあまりにも衝撃的で、写真を撮ることすらも恐ろしくてできなかった。この三日間で見たこと聞いたことのすべては、同様に胸を締め付けた。それらを見ていると、親を失った子供はどんな気持ちで生きていったのかと思ったり、何もわからず亡くなっていった人々のことを想うと、とても切なく悲しい気持ちになってしまう。

三日間を通して様々な体験をしたが、その中で一番わかりやすかったのは、やはり被爆者講話だった。講話を聴いていると、どんな資料よりも重みがあり、とても鮮明に伝わる。三日目の碑めぐり講話をされた被爆者の娘の中谷さんは、状況も詳しく説明して下さったが、体験をしていないためか、言葉の重みはその瞬間を生きた平野さんとは全く

違った。こうして、原爆が本当にむごい物であると感じると同時に、そのことを語り継ぐことは難しく、戦争についてのむごさを、重みをもって語れる人が少なくなる、ということとはとても深刻な事態であると感じた三日間であった。



## 広島派遣を通じて

荏原第五中学校 瀬川 佳菜

今回、広島派遣に参加して、感じたこと、学んだことがたくさんありました。それは大きく分けて3つあります。

一つ目は、戦争の怖さです。広島に行く前から知っていたこともあったけれど、二日目の平和記念資料館見学、原爆死没者追悼平和祈念館見学で実際に実物や資料等の展示物を見ることで、改めて怖さを感じました。表面が原爆の熱によって溶けてしまった瓦、くっついてしまった数十本のびん、他にも折れてしまった柱、亡くなった方の遺品など、それらのものが原爆の恐ろしさ、怖さを物語っていました。原爆によって亡くなった方はどんな思いをしながら亡くなっていったのか、より深く考えていかなければいけないと思いました。

二つ目は、被爆者の悲しみです。今回は平野さんにお話を聞きました。平野さんはケロイドがあるということはいじめを受けていたそうです。しかしそれはおかしいと思います。平野さんは原爆による被害者なのです。原爆でも嫌な思い、悲しい思いをしているのに、またいじめなどで傷つけられて、平野さんご本人も「悲しい人生」と振り返っていらっしゃいました。同じ人間なのに、このような思いをする人が出てしまっているのでしょうか。

私は良くないと思います。だから、このような気持ちを持つ人がいなくなるにはどうすれば良いかを考えました。一番は人を気づかう、人を思いやる気持ちだと思います。相手の気持ちを知っていれば、人を傷つけようとも思わないし、つらい思いをする人がいなくなると思ったからです。思い出すことで辛いはずなのに、多くの経験を話して下さった平野さんの思いを無駄にしないように、「戦争」「争い」はダメなんだということを多くの人に伝えたいと思いました。

三つ目は、復興への努力です。今の広島姿になるまでには、多くの人々が関わり、たくさんの努力があったことを知ってほしいです。原爆が落とされてからたった三日で路面電車が走ったのです。これがどれだけ大変なことかわかりますか。女性、男性、子供、大人関係なく、多くの人が手伝ったのです。しかも運転していたのも女性です。これはその当時では珍しいことだったそうです。

この三つのことから、私は改めて戦争はしてはいけないと思いました。戦争は人の心、体、そして人生までを狂わせてしまうのです。それを中心となって伝えていかなければいけないのが私達なのです。しかし、まだ戦争についてよく知らない人がたくさんいます。今回お世話になった方々に感謝の気持ちを行動で示せるように、たくさんの人に戦争の悲惨さを伝えていくのが私達の使命だと思うので、しっかり役割を果たしたいと思います。

---

## 平和への一分間

荏原第六中学校 柿沼 旺介

八月六日八時十五分、僕は、広島平和記念式典で黙禱を捧げました。誰もが亡くなっ

ていった人達に黙禱を捧げた一分間、そこにいる人達全員の心が一つになり、聞こえてくるのは蝉の鳴き声だけでした。広島に平和への一分間が現れた瞬間でした。

原爆投下七十年という節目の今年、僕は広島平和使節派遣団の一員として広島に行きました。

一日目、僕達は被爆者の平野さんのお話を聞きました。その中で特に印象に残っているのは、戦時中の暮らしについてです。戦時中は子供でも兵隊さんのためにさつまいもを作っていたそうです。その他にも、ご飯もろくに食べられず、十三歳になっても勉強をする時間さえなかったと言っていました。それを聞いて僕は、今はとても恵まれていると改めて感じました。今では当たり前のことも、当時はできなかったのです。

そして二日目。あの日から七十年目の平成二十七年八月六日、僕は平和記念式典に参列しました。式典には、様々な市、都道府県、国から大勢の人が参列していました。みんな、平和を願う気持ちは一緒なのだと思います。式典では、たくさんの人のお話がありましたが、その中で心を打たれたのは、子供代表の平和への誓いです。そこには「仲間が死んでしまう悲しみは、自分達若い人にも分かる」という言葉が入っていました。その通りだと思いました。原爆の辛さを知らない僕達でも、大切な人の死に対する悲しみは分かります。子供にも分かるなら、大人にも分かるはずですが、今はそれができていないので戦争や悲しい事件が起こるのです。世界中のすべての人が命の尊さを理解しなくてはなりません。世界中の人みんなが命の尊さを分かった時、戦争や事件はなくなると強く信じています。

原子爆弾はとても恐ろしいものです。被爆者の坂本はつさんが書いた「げんしばくだん」という詩の一部にはこう書いてありました。「人はおばけになる」これは、原爆によって人が人の姿でなくなってしまうということです。広島平和記念資料館には、その時の様子を人形で表したものがありません。僕はそれを見た時、思わず目を背けてしまいました。人をおばけにしてしまう、そんな物を落とされてしまった広島は、その後どうなったのでしょうか。広島に着いた時、第一に僕が驚いたことは広島のかなしい街並みでした。そこはとても七十年前に原爆が落ちたとは思えないほど整った町でした。ここまで復興するために、どれだけの人の努力があったのでしょうか。

平野さんは戦争を起こす理由は、「悪い欲」だと言いました。全ての人が悪い欲をもたない世界を作ることが必要です。そのためには、僕達若い世代が、この悲劇を語り継いでいくことが重要なのです。そして、当たり前なことが当たり前で、誰もが平和だと思える世界を創っていくことが僕達の使命です。

---

## 平和を学ぶ

戸越台中学校 野口 夏七

「戦争」の対義語は「平和」

私はこのことがどういう意味か、今回の平和使節に参加するまではよく分かりませんでした。確かに戦争と平和は遠く離れた言葉ですが、どうして対義語なのだろうと。

その疑問を抱きつつ、いざ広島へ。

新幹線を降り、路面電車で揺られ、少し歩いて最初の予定「被爆者講話」を聞きに行きました。話をしてくださった平野貞男さんは、

被爆当時12歳。今の私たちよりも年下でした。戦争のさなか生まれてきた平野さんは、戦争と共に過ごした少年時代や当時の状況を資料も使いながら分かりやすく説明してくださいました。

当時を知らなかった私は、その実際に体験したお話に大きな衝撃を受けるばかりでした。

衝撃の残るまま、向かったのは「平和記念公園」と「原爆ドーム」。

その日初めて原爆ドームを近くで見ました。目の前にしたときは、まるで時間が止まったような緊張と震えるような恐怖を感じました。ドームの存在自体が、原爆の威力・恐ろしさを語っているように見えました。

生々しく残されていた崩れた瓦礫や焼け跡。たった一つの爆弾で建物や景色、人々の心まで大きなダメージを与えたと思うととても悲しくなります。それまで普段通りだった広島という大好きな故郷が突然地獄のように変わって、平野さんたち生き残った人々はどれほど苦しかったのでしょうか。想像するだけで、胸が締め付けられます。

一時間の見学時間で色々なことを考えさせられました。短い時間ではありましたが、平和について深く考えた内容の濃い時間でした。

二日目の朝は平和記念公園で「平和記念式典」に参列しました。

太陽の照りつける、とても暑い日でした。あの時の広島もこんなに暑かったのだろうか。と不意に思い、そこで爆弾を受けた人々を想像して辛いような形容しがたい気持ちになりました。

式典の内容は勿論、その後の意見交換会で皆と平和について話し合ったのはとてもいい

経験でした。

お昼のお好み焼きで満腹になった後は、袋町小学校の「平和資料館」へ。

様々な資料の中でも一番印象的だったのは、折り鶴です。階段の上や廊下など、至る所に折り鶴が捧げてありました。平和記念公園にも沢山の鶴が捧げてありましたが、このように広島各所で見られると改めて平和の重要さや人々の思いが感じ取ることができました。

二日目の午後はほとんど「平和記念資料館」と「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」の見学でした。衝撃的な資料や映像が多かったので、印象に残っているものも多いです。

特に原爆投下後の悲惨な場面を人形で再現した所と、佐々木禎子さんの千羽鶴が印象深いです。

人形の所はリアルで、凄く怖かったです。ですがその分、戦争の恐ろしさと原爆投下後のヒロシマが怖さに増して伝わってきました。

禎子さんの千羽鶴には、生きたい気持ちが込められていました。原爆によって短い生涯に幕を閉じた禎子さんの生きたかった思いに、涙が出そうでした。

夜の灯籠流しでは、自分たちの灯籠は見つけられなかったものの、ライトアップされた原爆ドームは幻想的で、絵の中の景色のような優しい光の灯籠は平和を象徴しているようでした。

最終日の碑めぐり講話は、講師の中谷さんのお話を聞きながら碑をめぐりました。

碑からはそれぞれメッセージが聞こえるような気がして、切なくなりました。他にも中谷さんのお話から学ぶことも多く、とても良い時間でした。

私はこの広島派遣に行く前、どうなるかわからなくて不安でした。でも実際に行ってみると一つ一つの時間が短く感じられ、とても充実した3日間を過ごすことが出来ました。ここで学んだことを学校のみならず知り合いの人に伝えたいですし、色々な人に戦争や平和について考えてみてほしいと思います。戦争を二度と起こさない為にも、この平和を持続させる為にも、各々考える機会が増えたらいいなと思うからです。

最後に、今回の派遣に携わった皆さん、先生方、保護者の方々、良い経験を本当にありがとうございました。

派遣生が捧げた千羽鶴（左）





## 4. 被爆者講話



### 被爆者講話

平野 貞男さん

みなさんこんにちは。もう二か月したらね、10月17日で83歳になるんです、ほんま。もうね、頭はげてね、皮剥けてね、心臓3回手術して、もうね2回目が済んで、市民病院の先生が「平野、お前な、生きられんで！」って言われたんです。「どうしてですか？」って聞いたら、「もう心臓の血管がボロボロじゃい」って、で生きようもんなら手術をしてあげるよって言われて、「どんな手術ですか」って聞いたら、今まではね、カテーテルを入れてね、バルーンとか、ヒューム管みたいなのを2回入れたわけよね、心臓に。痛かったよ。後がね、3回目がね、75歳の時にそう言われたんで、「どうしたらいいんですか？」って言ったら、バイパス手術ね、足の血管2本とって、心臓につなげるわけ。3本大きい血管がいるわけ、心臓にはね。じゃが、2本しか取れない。あと1本がね、左の足の血管を取ろうとしたら、左の血管が傷ついているから取れない。3本いるところを2本しか心臓には入っていない。心臓は3回手術して。で今度はね、眼が見えないわけ。

今から2年前か、もうね、信号機の信号が分からんし、自動車が分からんし、皆さんの顔も見えんし、先生の顔も見えんようになった、足元が見えんようになった。で、手術したら、両目をね、よう見えるようになった。それで、こうやって皆さんの前で話ができるようになった。もう体中ね、腎臓も半分しかないし、もう82歳になったらポンコツ車もいいところなんやね。いやホンマ。皆さんは若いけん、ニコニコ笑ろうとる。じゃがね、もうそんなもんじゃないんやね、年を重ねるということはね、ホンマ厳しいんよね。皆さん今からどんどん伸びる、じいちゃんはずぼんでいくつばかりじゃろ。年寄りの愚痴じゃけどね。じゃが、自然の成り行きだから、衰えていくのはもう仕方がないことやんなね。いやホンマ。ある面では寂しいよね。人生にバイバイせんといかんのじゃけん。じゃが、自然の摂理、もう決まっとるんじゃけん。オギャーと生まれたら、もう確実に死んでいくんじゃけん。ごめん、お寺さんの説教みたいなこと言って悪いんじゃがね、皆さんの若い顔を見させてもろうたら、ものすごい、こんなに時代が過ぎてしもうたんやのーって感慨でいっぱいよね。

じいちゃんが生まれたのは昭和7年、1932年か。じいちゃんのはね、道路に馬車、お馬さんが荷台を後ろに連ねて、御者さんが鞭でお馬の尻をひっぱたいて、荷物を運んだりしよった時代。じいちゃんが産まれた頃はね。いや本当じゃけん。馬糞はね道路にたくさんあって、それを拾って、校庭は皆さんのところはコンクリート？ じいちゃん

の学校は普通の土じゃけん。校庭を鋤で耕して、サツマイモなんかを作りよった。いやホントよ。それほど食べ物がなかった。ない。ホンマ。作っても戦争をしているから、外地で戦っている兵隊さんへ送らなきゃいけなかった。ホンマ。で、キャラメルとかねチョコレートなんか、じいちゃんなんか食べてないわけ。慰問袋に入れて、そして外地で戦っている兵隊さんに送りよった。送るのはいいんじゃが、アメリカの潜水艦にその輸送船が沈められるわけ。バシー海峡いうてね、台湾とフィリピンの間の海峡で、敵のアメリカの潜水艦が待ちよって、日本の船を魚雷で沈めるわけ。兵隊さんは、弾の打ち合いだけでなしに、食べ物がなくて餓死するわけ。で、死なれた人も随分おってるわけ。皆さんも勉強してると思うんだけど、それほどきつい戦争じゃったんやね。



そもそもじいちゃんがね、4年生か5年生くらいの時に、今の中国と戦争して、その挙句、昭和16年12月8日、アメリカ・イギリスと太平洋戦争をおっ始めたわけ。ほんと無茶苦茶な戦争を日本はしてきたわけ。皆さんはいいよ、戦争の怖さは全然わからんじゃけん。そうやって戦争の真っ最中に生まれて、そして、原爆によって傷だらけになった。皆さんは平和の真ただ中で、こうやって冷房のきいた部屋で勉強ができる。ほんと幸せがすぎる。じいちゃんから言わせれば、

恵まれすぎている。いやホンマ。そう思うよ。校庭耕して、さっき言ったように、馬糞を肥料にして、サツマイモ作りよった時代と全然違うんじゃけんね。ありがたい思わなきゃいけん思うよ。皆さんに強制するわけじゃないんだけど。時代がそれだけ違ってきている、いうことなんじゃけんね。じいちゃんから見れば、現代はホンマ夢みたいな時代。じいちゃんは考えたこともない、小さいときに。こんな世の中になるとは夢にも思わなかった。ほんとね、軍国主義いうてね。もう軍隊がね。兵隊さんの時代でね。ホンマ戦争戦争そしてまた戦争いうてね、戦争ばかりしよった。じいちゃんはね戦争の申し子、いうことなんやね。

みなさん面白くない話をじいちゃん今からするんだけどね。小学校でもね、国民学校って名前変えてね。戦争のためにね。日本国民全部を戦争に向かわせるために、国民学校って名前に、じいちゃんが小学校2年生くらいの時に、国民学校になったんよね。で、戦時色一色になったんよね。戦争に向かって進めよって時代にじいちゃん達は遭遇したわけよね。ホンマ。厳しい厳しい時代を経過して、今こうやって皆さんの前で、生き残りがお話をするわけなんやね。それだけは納得して、頭に入れて、このじいさん何言いよるんだ？って思うかもしれんけど、それだけ時代が経過してしもうたいうこと。いやホンマ。皆さんはまだピンとこないかもしれんけどね。

そして昭和16年12月8日に、中国と戦争しながら、アメリカ・イギリスと戦争を始めたわけ。そのきっかけになったのが、台湾・朝鮮・満州国は日本が植民地化したとった、それから手を引けいいうのを、アメリカが言うて



いたのを日本が断って、そして太平洋戦争を、アメリカ・イギリス連合軍と始めたわけ。後からソ連なんかもはいつてくるんですがね。ほんと日本の国の存亡をかけて、戦いをしていた時代。身近な例がね、太平洋戦争、約4年間。

日本はね、最初は勝ちよった。ハワイのホノルルで、アメリカの連合艦隊をやっつけた。真珠湾攻撃。それがきっかけになって、そして初めは勝ちよった。17年初め頃まではね。そしてミッドウエーの海戦で負けて、それからずるずる押されて、硫黄島とか、アッツ島などはホノマ激戦地域。で、日本はどんどんどんどん押されてきて、昭和20年の4月初め頃、今の沖縄県に、アメリカが反撃して、押してきたわけ。マッカーサー元帥って知ってるよね。あれが「リメンバーパールハーバー」って、「ホノルルを忘れるな」っていうことで、ずっと押してきた。もう戦力が全然違うわけよね。日本は、皆さんも知ってるように、資源がない国。少しは石炭とか、石油が秋田県の方にちょっとでよったくらい。あとは、とにかく何にしても日本は資源がない。今もない。皆さんも知ってるように。それが、あの強大な強い資源国のアメリカを相手に戦争をすること自体が間違ってるわけなんやね。まあ、日本魂とかなんとかいうて、大和魂とかだけでは勝てんよね、戦争。やっぱり物量、物がなければ、戦争は勝てない。戦争したらいいのよ。いやホノマ。じゃが、政治を軍部、今の自衛隊に例えたらちょっと悪いけど、それらが日本を統治しとったような日本国じゃつわけやね。もうね、一般庶民が、政府に対して口を挟む余地がない。軍国主義やね。日米の海戦を始めたのも、軍隊の官僚が「アメリカと戦争しよう」いうて決め

たようなわけよね。そういう時代だったわけ、じいちゃんが子供のころは。

で、さっき言うたように、硫黄島、それから沖縄で、アメリカ・イギリスの連合艦隊が沖縄にずっとよせてきて、そして沖縄にもすごい量の爆撃を加えてきたわけ。で、そうやね4～6月、3か月、沖縄は一生懸命、軍人はもちろんのこと、一般の人と一緒にして戦った。そして20万近い人が死なれたわけ。皆さん、テレビとかなんか見ちゃった？沖縄戦。特攻隊とか、我が命を飛行機爆弾もろともに敵の軍艦へつっこんで、自爆行為、今でいえば自爆よね、自爆テロと同じようなかっこう。自分と爆弾と飛行機。で、敵の軍艦に向けて。そりゃ辛い思うよ。死ぬのは分かるとるんじゃない。けど、若い18歳から23、4歳くらいまでの優秀な青年が、特別攻撃隊で、「神風特別攻撃隊」いう名のもとに死んでいった。3000人くらい死んじゃったかね。戦争にしても、どうなんだろうね、そういう戦いかたはね。今の自爆テロと同じこと。そうやって、戦争をやってきたわけ。



戦争を始めたのは昭和16年12月じゃけんね、17年にはアメリカは原子爆弾の計画を練って、そして、ニューメキシコ州のロスアラモスという砂漠の中で、もう原子爆弾の研究をしよったわけ。で、その知識は、アインシュタイン博士知ってるよね？ドイツの

ユダヤ系の優秀な人なんかをアメリカへ連れてきて、そして、秘密のうちに、原子爆弾を作りよった。密かに。そして完成したのが、昭和20年7月18日か19日頃。ロスアラモスの砂漠で、第1回の原子爆弾の実験をして成功したわけ。で、翌月の昭和20年8月6日の8時15分に広島へ、2発目。3発作って、1発は砂漠で成功して、2発目は広島へ落として壊滅的な打撃を与えた。3発目は皆さん知っとるように長崎に昭和20年8月9日に落とした。いうふうにしてね、アメリカと日本と全然レベルが違うわけやね。財力から軍事力から政治力から、日本は兵隊さんが威張っとった時代なんやね。まあわしが一方的に言うちゃ悪いかもわからんけど。もう歴然としとったわけやね、そうやってね。



じいちゃんが中学1年生かな、皆さんよりも1級下、12歳で、じいちゃんは1年生になってもね、勉強いうのはほとんどしてない。いやホンマ。農家に行って、そしてジャガイモ掘ったり、サツマイモ作ったり。今の、新幹線が着いたでしょ、広島駅。あそこの北側の、今ビルがたくさん建っとるけど、あそこ「東練兵場」いうてね、軍隊が訓練をする練兵場じゃったわけ。そこへ、じいちゃんは、サツマイモ作るのに練兵場を耕して、そしてサツマイモ植えて。そしたらね、アメリカのグラマン戦闘機知っとる？南から急降下してきてね、機関銃をダダダダーッって打って

くるわけ。じいちゃんは畑のあぜ道の中に伏せて、見たら飛行士と目が合うわけ。30メートルくらい先に飛行機が来て、急降下して、機関銃掃射するわけ。目がチラッと合うたわけよ。ああ、これは帰りはやられる思うたわけ。したらね、ちょうど双葉山いって、新幹線の北側に山があるんやけど、双葉山をそのままスーッと行ってしもうた。引き返してこんかったわけやね。やれ助かった一思うてね。それが第1回目の恐怖。グラマンに機関銃掃射されたんがね。戦争の恐ろしさを味うたのがね。というのはね、日本が戦う余力がなかったわけやね。高射砲も打たないし、機関銃も打たないし、ましてや戦闘機があがってきて空中戦するわけでもないし、もうねアメリカの攻撃なすがまま。日本はほんと、昭和20年8月いうたらね、手挙げて降参いう状態じゃった。

そうしよったらね、8月初め頃じゃったかね。じいちゃんが海へ行って貝堀りしよったわけ。そしたら、呉の軍港、戦艦大和をつくったね。あそこをね、アメリカの、さっき言うたグラマンの戦闘機とか、ロッキードP38いうてね、胴体が2つある飛行機が来てね、呉の港に停泊しとる軍艦に向かって、ものすごい爆撃を始めた。じいちゃんはね、「ああ落ちた、落ちた」言うたわけなんやけど、戦闘機がね。そしたらスーッと上がるわけ。落ちたんじゃんじゃないんよ。爆弾を日本の軍



艦に落として、急降下して爆撃して、急上昇しよったわけ。アメリカが、もう日本の軍艦をめっちゃくちゃに攻撃して、撃沈してしもうた。

東京大空襲は昭和 20 年 3 月 10 日かいね、10 万人くらい死んじゃったやね。皆さんよう知っとってるはずなんやがね。日本の 68 くらいの都市が、ほとんど焼夷弾攻撃をくらって、ほとんどの都市がやられたわけ。B29 が九州と四国の間の豊後水道を通過して、この上を通過して、東京の方をすーっと行って爆撃して、グアム島の隣のテニヤンの飛行場へ帰っていくわけなんやね。毎日のように B29 がこの辺を通るわけ。キラキラ光りながら。じゃが 9 千メートルから 1 万メートルの高度だと高射砲打っても当らんわけよ。ま、撃つ力もなかったんじゃがね。日本の戦闘機が B29 に向かってダーってあがっても届かないわけ。成層圏に近いからね、9 千メートルから 1 万メートルの高度だとね。B29 は悠々とこの上を通過して。もう終戦間近の時にね。豊後水道に入ったらね、警戒警報いうてね、西部軍情報いうてウーって長いサイレンが鳴るわけ。警戒せいよいうてね。で、広島の上空に来たら、空襲警報、今の火事のサイレンよね、ウー、ウー、もう防空壕に入りなさいよ、山に逃げなさいよいう空襲警報、そういう状態じゃけど、広島には爆弾を落とさんかったわけ。広島だけじゃないよ。京都、新潟、広島、小倉、長崎、5 つくらい原子爆弾を落とす都市を決めとったわけ、アメリカは。じゃが、なぜ広島の上空を通りながら爆弾を落とさんかったかいうたら、原子爆弾を落として実験をする都市を残しとったわけ。一番条件がいいのが京都。地形から人口から、人口が約 100 万かね。京

都に落としたらその効果がどんなものであるかいうのを、アメリカはちゃんと計算してね。京都は温存しとったわけ。だけどアメリカもそう無茶ばかりはせんわね。今の文化財がたくさんある京都を爆撃したらいけんいうのをアメリカの上層部が落とすないうことで、京都は外したわけやね。で、後はね、広島が第一候補に挙げられたんよね。今から皆さんは資料館行って、いろいろアメリカの考えがあったのを、皆さんたぶん分かるはず。いうことで、もう第一に京都を外して、あと二番目に広島に行くことになったんやけど、じいちゃんはわからんよね、そういうことね。7 月ごろじゃったかね、B29 からビラが落ちてきたわけ。崖っぷちから家が落ちそうになった例えのビラを落としてきた。そのビラを拾って先生のところに持っててね。もう、予告はしとったわけ。原子爆弾とは言わんが。広島を破壊するよ、いうビラが落ちてきたのはじいちゃん覚えちゃおるんだがね。そんな予告があって、8 月 6 日月曜日、ものすごいええお天気、今日みたいなね。じいちゃんは勉強もせずに、夏休みも一切なしじゃけんね。月月火水木金金いうてね、土曜日曜ない。皆さんこうやって夏休みでええんじゃけど、じいちゃんは夏休みどころじゃないわけよね。戦争戦争戦争いうてね駆り出されて。じいちゃんは疎開作業しとった。家をここから 200 メートル先までの家を全部倒しなさい、きれいに片付けなさいという政府の命令で、じいちゃんはスポン履いて地下足袋履いて、家にロープをかけて、みんなが「よいしょ、よいしょ」言いながら家を倒すわけ。そしたら、瓦は瓦、柱は柱、いうふうに区分けをして。そして柱なんかは、広島市の郊外、近くの村へ運び出して。いう作業をじいちゃんは皆さ

んより一つ下だが、勉強せずに、国の命令で、勤労奉仕、学徒動員やりおったわけ。じいちゃんだけじゃなしに、一年生二年生が疎開作業、三年生以上は近くの工場行ってね、ここらでいえば、日本製鋼所とか東洋工業いう、今はマツダ自動車ね。あの当時は、東洋工業いうて、兵器や鉄砲を作とった。日本製鋼所は大砲なんか作とった。わしの兄貴なんかは三菱造船。中学3年生じゃったかな、兄貴は。そういうふうにして、皆動員学徒で工場行きよった。3年生4年生がね。1年生2年生が家屋疎開。で、やりおった。



8月6日月曜日暑いよね、真夏じゃけんね。で、7時頃かね、この上B29通ったんよね。通ってわからんようになって、8時15分の朝礼、職員室から先生が出て。出てきよっちゃったんよ。まだ教壇の上には立ってない。先生が出てきよったじゃけん、並ぼう並ぼういうて、皆遊びおったのを、朝礼台の前に集まりかけた時に、ピカーッって光ったわけ。飛行機がね、B29が岡山県の方からすーっと入ってきたのを一部の人は見とるわけ。キラキラ光りながら、音を立てずに、警戒警報も空襲警報も鳴らなかつた。豊後水道の上を通過して、こう通るときには警戒警報のサイレンやら空襲警報のサイレンが鳴るんじゃが、岡山県の東から入ってきたときには、原子爆弾積んどるB29がそーっと入ってきたときには、警戒警報も空襲警報も鳴らないの。静

かに入ってくる。ホンマ。で、いきなりピカーッって光ったわけなんよ。で、光ったときの状況がね、じいちゃんは絵を描いたので、あげますから。これじいちゃん描いたの。(※) たしかねピカーッって光った瞬間ね、3秒から4秒くらいの間にね、こうやって焼かれたわけやね。焼かれた後のケロイドいうんやがね、右半身がずる剥けになったわけ。ばあっと光った瞬間には、もう皮がね剥けてた。温度がね、約1500度かね。中心部は違うのよ。中心部は5000度くらいかね。じいちゃんは2キロ離れとるけん、1500度。いうたら鉄を溶かす温度やね。で、3秒くらいの間に背中から足から両腕から頭の方から首の方から耳の方からみんな焼かれちゃったわけ。瞬間じゃけんね、熱いとは思わんかったわけ。全然感じんの。1500度の温度で焼かれても瞬間的には熱いという感じは全然なかったわけ。しばらく3秒か4秒たったころかね、ようわからんけど、あるいは10秒くらい経つとったかもわからんが、ものすごい爆風が来たわけ。で、その時にみんなは吹き飛ばされたわけ。立つとられんわけよね。ホント。風速が、今で言えば、気象台が発表したんがね、2キロ離れとって80メートルくらいの風速じゃなかつたんかのいうて、まあ気象台の発表ではね。それで、吹き飛ばされて、真っ暗になったわけ。いやホンマ。表現が大げさなようやけど、真っ暗になってね。ホンマ。砂埃が口の中にいっぱい入ってきたわけ。息をせんわけにはいかんから、息をしたら砂埃がウワーッてみな吸い込むわけやね。で、のどはカラカラになるわね。そして真っ暗になるじゃろ。で、その時に帽子は飛ばされた。でね、みんなが目と耳をおさえて地上に伏せる。なぜかいうたら、目ん玉が飛び出すわけ。耳



は鼓膜が破れるわね。小学校の折から訓練、防空ずきんなんかは皆さん知ってると思うけど、その当時は持ってって行ってなかった。小学生じゃないけんね。で、目と耳をおさえて、伏せ思うた先に爆風が来て皆飛ばされてしもうたわけよね。で、第一声が「あ、帽子がない!」「おかあちゃん!」「熱いよ!」いうて、その時初めて「熱いよ!」いう声が聞こえたわけやね。だんだん薄明りが差してきたわけ。吹き飛ばされて、明るくなって、みんながね蜘蛛の子を散らしたようにてんでばらばらに逃げたわけ。先生がこっち逃げなさい言うことも一切ない。先生も焼かれているわけだからね。だいたいね、線路伝いに、学校の近くに宇品線があって、海に向かって逃げた子が多いわけ。線路伝いにね。線路なら迷わずに逃げられるんで。南の方へ逃げた人が多かった。じいちゃんは、比治山いうてね、家に近い方近い方、帰巢本能いうんかね。小鳥が我が巣へ帰るように、じいちゃんは比治山に逃げたわけ。高い山じゃないよ比治山いうのは。



みんなホンマおばけ。化け物みたいになってね。ゴロゴロしとるものはもう焼けてポロポロじゃし。顔なんかでも、唇なんか膨れてしもうたわけ。柔らかいところが膨れるわけ。顔が倍くらい、倍は大げさかもしれんけど。そしてね、みんなまだ火がついとるわけ。ゲートルとかね地下足袋とかね。みんながね素手で消しあいっこしたわけ。そして、じい

ちゃんは比治山に逃げただけど、防空壕入ろう思うたらね、もう防空壕がいっぱいなんよ。入られんの、負傷者でね。そいで、みんながねうめきよるわけ。「熱いよ」「痛いよ」いうてね。腹に杭が刺さったとか、もういろんな人がおったわけ。比治山に逃げて、夕方までおったかね。途中一回ね、敵の爆撃機B29が来て、その時にまた原子爆弾落とされる思うて、みんながね林の中に逃げたわけ。で、それがね、11時頃じゃったかね。B29が飛んできたのがね。で、夕方まで、じいちゃん全部焼けとるけん、座つとられんのよ。で、寝ころぼう思って寝たら、背中傷に小石が食い込むわけ。で、夕方まで待つて、もう「帰ろうや」っていうことね、友達とね。みんなが肩組んで、助け合って、そして、半壊になった家入って「少し休ませてや」いうたら「出ていけ!」いうて怒られてね。どうしてか思うわね。じいちゃん達はよれよれのボロボロの生徒が休ませていうて来たのに、なんで「出ていけ」いうてんかのってね。後から考えたら、じいちゃん達は3人だったんじゃが、家入って、間もなく死ぬるじゃろう。まあ重傷じゃけんね。死んだらまた遺体を道路に出さなきゃいけん、いうのと、一刻も早く自分の家へ帰れいう意味で、「出ていけ」言われたんじゃろう思うよね。仕方なしに3人がヨタヨタヨタヨタ助け合いながら歩いてね、帰りおったら、郵便局の前にバケツに水がいっぱい。汲んで置いてあった。「うわー、水が飲まれる」思うてね、柄杓でガブガブ飲んだら元気になった。だけど、火傷した人に水を飲ませたら死んでしまう、いうことで水は飲んではいけなかった。言い伝えではね。そうじゃなかった。そりゃ飲んですぐ死ぬる人もおるけど、じいちゃんは飲んでも

のすごく元気が出た。「歩いて帰れる」思うてね。それほど喉が渴いてね。

家へ帰ったら、家の塀は落ちて、ガラスは落ちて。ここから8キロか9キロかね。で、おふくろが、農業しよったんやけど、農家にはお酒の配給があった。で、お酒で体中を拭いてからね、あと残ったのを飲ませてくれたわけ。なぜそうしたのかいうとね、おふくろも火傷しとるわけ、やっぱりね。で、この爆弾は普通の爆弾ではない。毒を持つとる爆弾じゃいうことで、アルコールで消毒して、飲ませて気を失わせていうわけなんじゃけどね。で、「何をにぎとるん」いうて、右指を一本一本広げたら、剥けた皮が手のひらのところに固まっとるわけ。で、おふくろがハサミでじよきじよき切って。それまで分からんわけよね。何をどうしとるか。自分のことでありながら、自分のことが分からないほど、ひどい火傷をしとったわけ。みんなじゃけん、じいちゃん一人だけじゃない。死んじった人が約14万人。負傷者は、すごい数の負傷者がおるわけ。



ほんと戦争というのは、ものすごいむごい。したらいけんの、戦争はね。ホンマ。それからが大変なんよ。治って、社会生活をしていくのがね。差別とか、これだけの傷を負うたらね、ひがみが生じるわけよね。気持ち悪い言うてみんながいうわけ。家族にしてもね。それいちいち気にして怒りおっても生きてい

かれんの。中学2年生か3年生のころに、体育の時間に、体育の先生が「平野、ちょっと来い」言うて校庭呼ばれて、「お前、この体じゃったら生きていかれんぞ」言うてね、「今から毎日、腕立て伏せ。毎日やれ」って言われた。じいちゃんはわりと素直だったから、「はい」言うてね。70年間近くずーっと腕立て伏せをやったら、体がものすごく頑丈になってきたわけ。回数にしたら45、6万回、まあ正確には数えてはおらんけどね。毎日最低20回やったら、体もできるし、心も丈夫になるし、へこたれることもない。いじめられても「今にみてるよ」いうてね。じっと我慢してね。現在まで過ごしてきた。たった一言の「腕立て伏せをやれ！」いう一言で、じいちゃんの生涯は決まったようなものやね。治療をしてくれたのは母親なんやけど、医者がないんじゃけん、医者に行ってもどうしようもない。助からへんし。廊下じゃろうが、庭じゃろうが、負傷者、死者でいっぱいじゃけん。人を焼くところもないし、海のところ穴掘って、そこで焼いたり。皆さんきれいごと考えとったじゃろうけど、とんでもないこと。ものすごい、戦争の惨禍いうのはね。



平成27年8月5日  
YMCA 国際文化センター



<被爆者プロフィール>



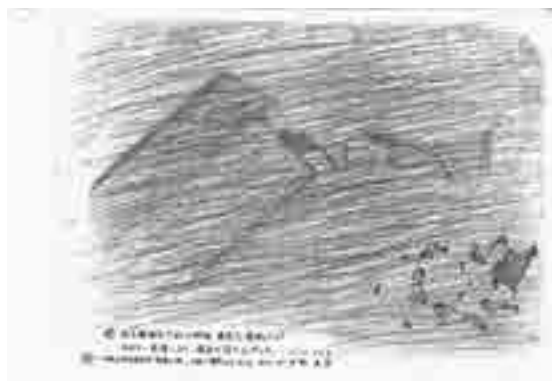
1. 氏名            ひらの    さだお  
                     平野    貞男
2. 被爆時の年齢 12歳
3. 被爆場所       広島市南区皆実1丁目付近
4. 当時の状況

被爆時、広商1年生。動員学徒で建物疎開作業に従事中に原爆の熱線でほぼ全身を焼かれ、爆風で飛ばされた。

母が火傷の薬がないのできゅうりの汁で直した。激痛で泣いた。

高校卒で信用金庫に勤め、「キモチワルイ」、痛いケロイド（火傷痕）人生70年。

※講師の平野さんが描かれた絵



## 5. 碑めぐり講話

日時：平成 27 年 8 月 7 日

午前 9 時から 10 時 30 分

場所：平和記念公園内

① 被爆したアオギリ



② 峠三吉詩碑



③ 材木町跡碑



④ レストハウス（元大正屋呉服店）



⑤ 被爆した墓石（慈仙寺跡の墓石）



⑥ 韓国人原爆犠牲者慰霊碑



⑦ 原爆供養塔



講師：中谷 なかたに悦子えつこさん

被爆二世。父・母が入市被爆。父は中学校教師で、学徒動員の安否確認のため、母は親戚の安否を確認するために、広島市内へ入った。

32 歳で被爆二世実態調査にかかわり、それ以降被爆二世の運動に関わる。

# 碑めぐり講話 ルートマップ (①～⑦)

広島市ホームページより

## 平和記念公園・ 周辺ガイドMAP

〒730-0821 広島市南区平和3-1-1  
電話：082-247-5732 FAX：082-247-5917 [www.himatsima-navi.or.jp](http://www.himatsima-navi.or.jp)

本川小学校  
平和資料館

トイレ

電話

水飲み場

碑や施設の詳細が  
ご覧いただけます。

- ① 世界の子どもの平和像
- ② 坂本三哲古文書碑
- ③ 日明生機碑
- ④ 中国の国士木下尚江海兵衛碑
- ⑤ 広島県地方木材協会の創設碑
- ⑥ 筑港記念碑
- ⑦ 新次春雄碑(広島県立大学の碑の複製)
- ⑧ 船岡宇保野史碑
- ⑨ 広島市道路先導碑
- ⑩ 花時計
- ⑪ 幼童の子の像
- ⑫ 平和の石像
- ⑬ 平和の碑計世
- ⑭ 遺族供養の慰霊塔
- ⑮ 広島県立歴史館
- ⑯ 平和の鐘
- ⑰ 平和の石像

- ⑱ 韓国入道聖徳太子聖蹟
- ⑲ 聖徳太子墓石(複製品を模した複製)
- ⑳ 平和の扉
- ㉑ 平和の鐘
- ㉒ 善哉寺
- ㉓ 善哉寺の碑
- ㉔ 広島二や三徳聖蹟
- ㉕ 広島国際会議場
- ㉖ 広島市形・造船工業学校の創設碑
- ㉗ 母の像
- ㉘ 原爆犠牲者慰霊塔と子どもの魂
- ㉙ 平和の像(複製)高川秀樹聖蹟
- ㉚ 友愛碑
- ㉛ 平和の門
- ㉜ 巨大神前南無聖蹟
- ㉝ 広島市立県立発展聖蹟
- ㉞ マルセル・ジロー博士聖蹟

- ㉟ ノーマン・トマス氏聖蹟
- ㊱ 朝鮮民主主義人民共和国国庫田記念碑
- ㊲ 平和記念バス
- ㊳ 平和の塔
- ㊴ 塔の中の電子像
- ㊵ 祈りの泉
- ㊶ 平和記念資料館(本館)
- ㊷ 平和記念資料館(東館)
- ㊸ 資料館棟内「ローマ法王平和アピール碑
- ㊹ 複製したアオダマ
- ㊺ 聖徳太子の像
- ㊻ 純玉五輪旗
- ㊼ 複製したバスマツ
- ㊽ 柱本町聖蹟
- ㊾ 遺族供養の聖蹟(広島平和都市記念碑)
- ㊿ 平和村全像(草野心平の像)
- 1 長良川の碑

- 2 平和の灯
- 3 祈りの像
- 4 平和の塔
- 5 巨大神前北聖蹟
- 6 国立広島原爆死没者追悼平和記念塔
- 7 シェルハウス(原爆被害の証)
- 8 広島聖堂(戦時中の聖堂)
- 9 平和記念碑
- 10 原爆犠牲者慰霊塔・戦人之碑
- 11 「平和の祭り」の碑
- 12 原爆犠牲者に祈るの碑
- 13 広島関係の歴史的聖蹟
- 14 広島聖堂(原爆犠牲者追悼の碑)
- 15 広島県農業法政博物館聖蹟
- 16 毛髪碑
- 17 原爆犠牲者追悼の聖蹟

-32-

## 6. 成果報告

各中学校を代表して参加した 15 名の派遣生は、広島で学んだこと、感じたことを各学校・地域に伝えるため、下記のとおり報告会や発表を行いました。

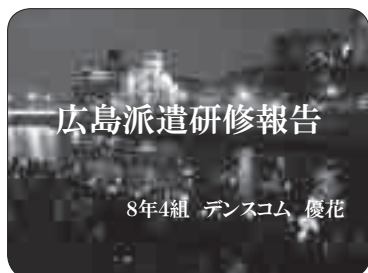
### 日野学園 デンスコム 優花

日時・場所：平成 27 年 9 月 24 日 体育館

方法・対象：報告会 日野学園 5～9 年生徒

発表の内容：広島に行って見たもの、考えたこと、感じたことを、今と昔を比較しながらまとめました。

- ①広島のイメージ ②広島の第一印象 ③平野さんの話～パート1～
- ④平野さんの話～パート2～ ⑤平和記念資料館で見たもの ⑥平和記念式典に参列して ⑦平和記念公園 ⑧外国人観光客の多さ ⑨戦争を防ぐために



### 伊藤学園 太田 梨香

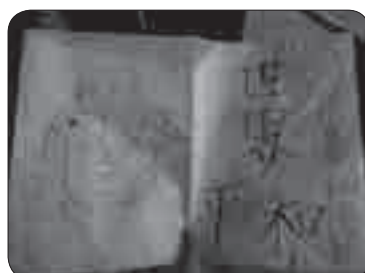
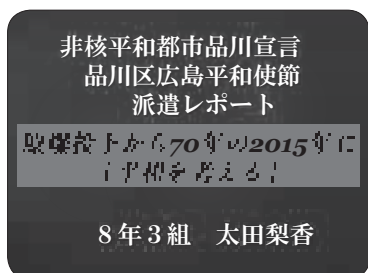
日時・場所：平成 27 年 10 月 23 日 伊藤学園アリーナ 1

方法・対象：学芸発表会での報告会、5～9 年生の児童・生徒、保護者約 750 人

発表の内容：・視聴覚教材を利用し、被爆者講話や平和記念式典への参列、平和記念資料館の見学など、派遣して学んできた内容について報告する。

・品川区の取り組みについて紹介する。

・「平和」について、学んだことを踏まえた内容のスピーチを行う。





**八潮学園 吉田 達哉**

**日時・場所**：平成 27 年 11 月 10 日 八潮学園アリーナ

**方法・対象**：報告会 生徒約 450 名

**発表の内容**：テーマ「平和って何？」



平和使節派遣で行ったことを報告し、また、そこで自分で感じたことを伝えた。平和の大切さを伝え、戦争について知ったことを周りの人に伝えてほしいと話した。

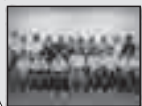
1 日目 被爆者講話

2 日目 平和記念式典への参列 意見交換会 資料館見学 灯ろう流し

3 日目 碑めぐり講話

**1日目 被爆体験者講話**

平野貞男さん  
子供の頃に被爆



**2日目 平和記念式典に参列**



**3日目 印象に残ったもの**



**荏原平塚学園 吉田 明菜**

**日時・場所**：平成 27 年 10 月 31 日 荏原文化センター

**方法・対象**：学習成果発表会での報告 生徒・保護者等

**発表の内容**：広島平和使節派遣団として、被爆者の話を

聞き、感じたことをまとめ、発表しました。

今回の広島平和使節派遣という貴重な経験

が、より日本における戦争の位置づけや歴史について深く考えるきっかけとなりました。



**<発表原稿抜粋>**

私たちの平和への祈りを込めた「とうろう」が永遠の未来にかかる、美しい流れの橋となりますように…。

今回の広島平和使節派遣体験を通して、家族みんなで囲める食卓や、友達と遊んだり、学校で勉強したりするという何気ない幸せに感謝し、これからもそんな日々を大切にしようと、改めて強く心に刻みました。

被爆70年目を迎えて

品川区立荏原平塚学園  
8年 吉田明菜

**品川学園 井上 明子**

**日時・場所**：平成 27 年 11 月 7 日 品川学園体育館

**方法・対象**：ポスター掲示（学習成果発表会）

**発表の内容**：学習成果発表会の時に体育館にポスター掲示をして、児童生徒や保護者が見ました。

4 枚の模造紙にまとめました。1 枚目は目的などの詳細をまとめました。2 枚目は 1 日目の行動（被爆者講話、平和記念公園、原爆ドーム見学）をまとめました。

3 枚目は、2 日目の行動（式典や三つの資料館、灯籠流しなど）をまとめました。4 枚目は、3 日目の行動（碑めぐり講話）をまとめ、私の感想や気持ち、これからの行動など全体のまとめを書きました。

すべての紙に写真を貼り、詳しく見やすくしたり文字を大きく書いたりして工夫しました。



**豊葉の杜学園 渡邊 由夏**

**日時・場所**：平成 27 年 10 月 31 日 豊葉の杜学園アリーナ

**方法・対象**：報告会 児童・生徒、保護者（約 600 名）

**発表の内容**：パワーポイントを使い、写真をスクリーンにうつしながら文章を読みました。

- ・最初の広島を見た感想
- ・70 年前の原爆が落とされた時の広島の様子。
- ・広島でお話を聞いた平野さんについて
- ・今と 70 年前の違い
- ・「平和」への想い

**<発表原稿抜粋>**

私にとって平和は、皆が大切な人と共に幸せな生活を過ごせる事です。そういう風に思えたのは、実際に広島に行き、被爆した物を実際に見て、被爆者の方から直接お話を聞いたからです。だから、平和という幸せに気付けたのだと思います。

**広島平和使節**

8年1組  
渡邊由夏

**広島の方々の想い**



東海中学校 新垣 杏佳

日時・場所：平成 28 年 2 月 20 日 東海中学校体育館

方法・対象：報告会

発表の内容：・被爆者講話について  
・原爆ドームについて  
・自分が考えたこと、思ったこと

## 広島派遣の報告

8年2組 新垣杏佳



\*原爆死没者慰霊碑



\*被爆したアオギリの木



\*被爆された平野貞男さん

大崎中学校 桜井 海竜

日時・場所：平成 27 年 10 月 31 日 大崎中学校体育館

方法・対象：全校生徒・保護者

発表の内容：① 1 日目：平野さんから聞いた講話についてのその感想  
② 2 日目：式典の参加と資料館見学についてとその感想  
③ 3 日目：碑めぐり講話とアオギリの木についての話  
④ 3 日間を終えて  
⑤最後に：平和を強く望む想いについて

## 広島平和使節派遣



8月5日～8月7日  
8年1組 桜井海竜

### 被爆者講話 1日目

YMCA国際文化センター



講話をして下さった  
平野貞男さん

### 2日目 平和祈念式典の参加・ 平和祈念資料館見学



原爆で亡くなった方の  
慰霊碑



熱風でボロボロに  
なった軍服

### 3日目 碑めぐり講話を聴いて

原爆にも負けず成長した  
アオギリの木



原爆で亡くなった韓国人を弔う慰霊碑

**浜川中学校 米田 優大**

**日時・場所：**平成 27 年 10 月 31 日 浜川中学校体育館

**方法・対象：**学習発表会 全校生徒（201 名）

**発表の内容：**パワーポイントで発表用資料を投影投影した資料にあわせて、報告をおこなった。



**鈴ヶ森中学校 今井 恵太**

**日時・場所：**平成 27 年 10 月 31 日 鈴ヶ森中学校体育館

**方法・対象：**文化祭の舞台発表  
全校生徒・保護者（約 300 名）

**発表の内容：**パワーポイントを上映し、報告を行った。パワーポイントは現地で撮影した写真を多く使い、見ている生徒たちに広島の様子を伝えた。派遣された生徒から見た広島を大切にして、14 歳からの目線で生徒たちに訴えかけた。





富士見台中学校 加藤 星楽

日時・場所：平成 27 年 10 月 22 日 荇原文化センター

方法・対象：文化祭での発表 生徒（450 名）

発表の内容：文化祭の舞台発表の中で広島平和派遣  
でのまとめをパワーポイントで作成  
し、発表を行った。



広島記念公園



平和の灯

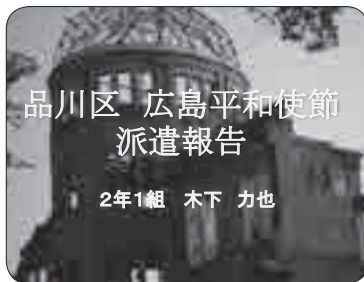


荇原第一中学校 木下 力也

日時・場所：平成 27 年 12 月 7 日 荇原第一中学校体育館

方法・対象：朝礼での発表

発表の内容：①原爆とは  
②その威力  
③被爆者講話について  
④原爆ドームの歴史  
⑤これからの平和



元産業奨励館(原爆ドーム)



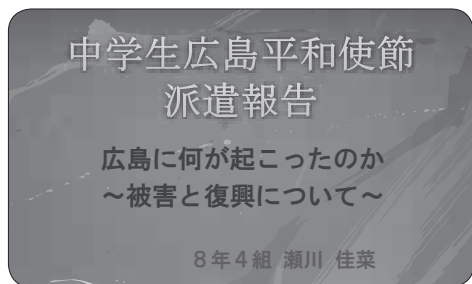
原爆ドームの横にあった碑

荏原第五中学校 瀬川 佳菜

日時・場所：平成 27 年 10 月 31 日 荏原第五中学校アリーナ I

方法・対象：文化祭での舞台発表 全校生徒（338 名）・保護者、地域の方（200 名）

発表の内容：パワーポイントによる発表資料を作り、発表原稿と合わせて、視覚に訴えられるよう工夫した。

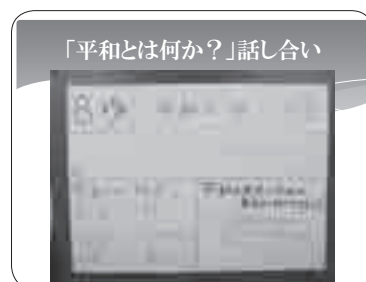


荏原第六中学校 柿沼 旺介

日時・場所：平成 27 年 10 月 31 日 荏原第六中学校体育館

方法・対象：報告会 生徒・教職員（300 名）

発表の内容：1、広島平和使節派遣団について 2、被爆者平野さんの話について  
3、平和記念式典について 4、原爆に関する説明  
5、平和についての話し合いの様子 6、自分の意見・まとめ



戸越台中学校 野口 夏七

日時・場所：平成 27 年 10 月 17 日 戸越台中学校格技室

方法・対象：報告会 第 2 学年 (110 名)

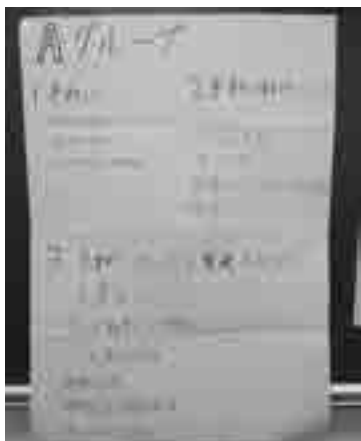
発表の内容：Power point による報告会

題目「原爆の影響と人々の「心」 ～「平和」とは何か～」

- ①原爆とは？
- ②広島平和使節派遣の体験談（平和式典・平和資料館・原爆ドーム・灯籠流し他）
- ③被爆者の話
- ④「平和」とは何か？



< 8 月 6 日 (2 日目) 意見交換会での各班の発表資料 >



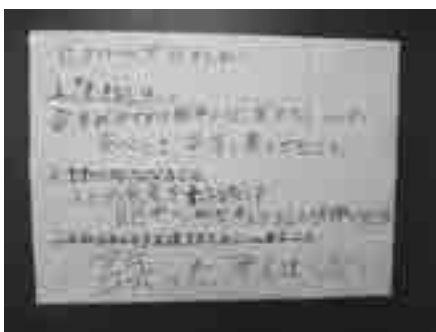
(A 班)

八潮学園	吉田 達哉
東海	新垣 杏佳
大崎	桜井 海竜
荏原第五	瀬川 佳菜
日野学園	デンスコム 優花



(B 班)

伊藤学園	太田 梨香
鈴ヶ森	今井 恵太
戸越台	野口 夏七
荏原第六	柿沼 旺介
豊葉の杜学園	渡邊 由夏



(C 班)

浜川	米田 優大
品川学園	井上 明子
荏原平塚学園	吉田 明菜
荏原第一	木下 力也
富士見台	加藤 星楽